

# 東恩納たくま議会報告

発行：市議会議員 東恩納たくま

〒905-2266 名護市字瀬嵩 48

2013年 1月号

電話・FAX：0980558567 携帯：09097869471 Email：ourawan\_dugongs@aqua.plala.or.jp

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

昨年末の選挙で政権交代が起きました。年が明け、普天間基地の辺野古移設計画を強引に進めようとする安倍内閣の姿勢がすでに見え始めています。しかし、沖縄県民の意識はもう元に戻ることはありません。県と県議会、全41市町村長と全41市町村長議会が辺野古移設に反対し、普天間の県外移設を要求しています。辺野古移設に反対する「オール沖縄」の要求は、米兵が沖縄で問題を起こすたびに、日本政府が強引に手続きを進めようとするたびにどんどん大きく鮮明になりました。これは沖縄の政治家たちが民意を代弁する役割をきちんと果たし始めた証拠です。特にかつて基地を受け入れる見返りに経済振興策を求めて

きた保守系首長は変わりました。翁長雄志那覇市長は「振興策を利益誘導だというのなら沖縄に振興策なんかいらぬ。税制の優遇措置もなくしてください。そのかわり、基地は返してください。」と述べています。これこそ今沖縄にいる私たちの声を代弁していると思います。「沖縄は自分たちで何とかするから、基地は出ていってくれ。」沖縄を差別して負担を押し付ける日本政府への不信感から、自立への道を模索するべきだと、多くの沖縄人が気付いたのです。

しかしここまで来るのに15年の月日がかかりました。住民投票、選挙、県民大会などを通して新基地建設NOを訴えて続けた結果、私たちの思いが代表者たちに伝わり、

「オール沖縄」が可能となったと感じています。その一番の例は、稲嶺名護市長が私たちの思いを受け「辺野古の海にも陸にも新たな基地は造らせない」と選挙公約をし、そして今その約束を守るべく、矢面に立って基地建設を阻止していることです。

難しい局面の中、市長の支えになっているのは市民の市長への信頼でしょう。日本政府と国民の間にはこうした信頼関係がありません。しかしあきらめずに沖縄が一致団結し訴え続ければ、他県の市民にも私たちの思いが伝わり、政府も無視できなくなるはずです。沖縄の「ちむぐくる」がためされる年です。心をひとつにして沖縄の思いを形にしていきましょう。



元旦、辺野古の初日の出です。稲嶺市長も来ていました。沖縄がひとつになって移設断念を勝ち取るために、私たち名護市民が市長と共にぶれることなく辺野古移設反対を表明することを日の出に誓いました。



# 議会報告

昨年私が議会で一般質問した中から、市から回答を得たもの、またその後進展のあったものの一部を紹介します。

## I 地域の活性化について —地域の活性化につながる事業が次々と計画されています—

### (1) 大浦マングローブ林体験学習施設

大浦マングローブ林は面積、保存状態の点で沖縄本島では最も良好な林であり、地域の貴重な財産です。平成7年より名護市の文化財にも指定されています。今年からわんさか大浦パークを拠点にしてマングローブ林に遊歩道を設置し、体験学習施設を作

る計画が進められることになりました。現在は3年後の設置に向け、調査が始まった段階です。遊歩道ができれば、体験学習をする観光客も増えることが予想されます。エコツーリズムとして利用するためには、適切な利用人数の検討、適切なルート設定、遊歩道

設置に伴う環境保全の方法など、利用ルール作りが欠かせません。地域住民、地域経済、観光客のすべてが満足いく形でマングローブ林を持続可能な観光資源にするために、今後も話し合いが必要です。関心のある方はご連絡ください。

### (2) 嘉陽小学校の跡地利用について

嘉陽小学校の跡地利用について市議会で何度も質問し、嘉陽住民とも話し合いの機会を持ってきました。嘉陽小がウミガメ飼育に取り組んできた経緯があり、また住民も跡地を研究施設にするよう要望したことから、沖縄美ら海島財団が跡地を利用し、「～ウミガメがよみがえる～美ら海学

校(仮称)」を創設することとなりました。ウミガメを飼育・放流して回遊調査をするほか、子どもたちの環境教育に活用します。また観光客も見学できるようにする予定になっています。2013年度から計画がスタートし、名護市は体育館を解体した後、財団に校舎を無償で、土地の一部は有償で

貸与します。この跡地利用により東海岸の観光振興にも期待が持てます。残る3校の跡地利用についても、地域住民、市、関係機関との話し合いを続け、持続可能な形で住民の利益になる活路を見出す手助けをしたいと思っています。

### (3) 文化財

嘉陽層の褶曲が昨年9月に国指定の天然記念物となりました。私は9月の一般質問で褶曲の説明を記した看板の設置等を要望

しました。市は2013年度の予算での看板設置を決め、4月以降に記念式典を行なう予定です。記念式典の際には、専門家による

地元の人を対象にしたガイド養成講座が開かれる予定です。

### (4) やんばる風景花街道

国道331号及び県道70号線東海岸道路沿いは、やんばる風景花街道に指定されています。議会でもこの指定を受けて、どのように地域の活性化につなげていくか、提起して来ました。二見以北では風景花街道を地域おこしに繋げるためのイベントとして、第1回花フェスタを3月に開催する予定です。その中でオ

ープンフラワーガーデンとして、個人宅のお庭を見学できる企画があります。3月の花フェスタの詳細、お問い合わせは、わんさか大浦パークまで。二見地区では「民宿てるや」さんのお庭がフラワーガーデンとして参加します。昨年11月二見にメロディーロードが完成しました。「二見情話」を聞きながら、

照屋のお庭を見学に行きませんか。





## (5) 持続可能な水産資源について—シャコガイの放流事業—



昨年10月に安部のカヌチャリゾートのビーチで、名護漁協

汀間支部がシャコガイの放流を行いました。ミスインターナショナルの代表たちが見学し、稲嶺市長も訪れました。今後は、漁業関係者、県栽培漁業センター、名護市が協力し、管理区域を設け、魚場の水産資源を枯渇させない取り組みにつなげて行きたいと、考えています。



シャコガイの稚貝をミスインターナショナルの代表より渡される海人

## II 名護市のごみ処理システムの新設について

現在稼動している名護のごみ焼却施設は耐用年数を迎え、平成30年度に向けて新しい施設の建設が必要です。昨年3月に環境審議会から市長へ出された答申では、新しいごみ処理施設も現在と同じ焼却システムを採用するとされています。しかし市民団体などが、バイオマス技術を利用した処理システムを作るべきではないかと、市側に働きかけています。現在、名護市民はごみの16分

別に労力を費やしています。また市は、焼却灰を地元企業に引き取ってもらうために年間約2000万円の支出をしています。答申通り、新たに従来と同様の焼却システムを造れば、今後も市民・市の負担は減りません。私は昨年、具志堅徹議員と北海道を訪れ、バイオマス技術を使ったごみ処理システムを見学してきました。札幌駅地下でJRタワービルから出た商業ゴミがバイオマスをつ

かい処理され、発電に利用されています。同じく北海道白老郡白老町ではバイオマス燃料化システムを使い一般廃棄物から固形化燃料を生産し、地元の製紙会社に販売しています。バイオマス処理システムでは、ごみ分別の簡素化につながり、煙も出ません。さらに維持コストの削減にもなります。



北海道白老町バイオマスごみ処理施設

また、バイオマス処理システムの技術はこれから数年で一般的となる可能性が高く、今、焼却方式を採用すれば減価償却までの30年あまりの間、名護市は非常に遅れたゴミ行政の自治体になってしまうことも懸念されます。生活に直結するゴミ問題について、環境審議会委員だけに任せるのではなく、市民が自ら情報を得て市と共に考えるべきだと思います。今、私たちは今後の名護市のゴミ行政を方向づける岐路に立っているとと言えます。一緒に考えて行きましょう。

## III 学校給食における放射性物質の測定の独自検査について

食物からの内部被爆の影響は特に子どもに大きく現れます。安心して子どもたちに給食を食べさせるために、市が放射能の独自検査を行なうことが必要なのは、という私の一般質問に答える形で、名護市では

市立小中学校及び幼稚園において、2012年10月26日から給食食材及び提供食の放射性物質の測定を実施することになりました。沖縄では初めての取り組みです。これまでの測定結果はすべて不検出です。測定

は今後も継続され、市のホームページなどで公表されます。食の安全のためには、地元農家と連携し、地産・地消に努めていくべきです。引き続き市へ働きかけて行きたいと思っています。



## IV 6次産業について

名護市は農産物6次産業化支援拠点施設として「なごアグリパーク」の整備を決めました。

6次産業とは農家自身が生産から加工、販売まで手がけ、生産地の収益を上げることを目標とした新しい取り組みです。「なごアグリパーク」では農産物の加工のために必要な施設を時間単位

で借りることができます。駐車場や道路などを含め整備費用約6億6170万円。2013年度以降に果樹のビニールハウスや野菜工場、工場で採れた野菜を使うレストラン、市内の農産物や加工品を扱う直売所、就農希望者を対象にした体験農園などの整備も検討しています。総事業費は最大15億

円ほどになる見込みです。名護市はこのアグリパークを起爆剤として、農業再生を目指しています。市のイニシアティブを効果的に発展させ、名護市全体で農業再生が進むように私も努力しようと思っています。

### 基地問題の進展を図るために

昨年1月末に「アメリカへ米軍基地に苦しむ沖縄の声を届ける会」の一員として訪米しました。その報告書が先月できました。ご覧になりたい方はご連絡ください。今回の訪米で私たちはアメリカ政治の中枢に沖縄の民意を直

接伝えることができ、今後の日米関係に波紋を投げかけたと思っています。アメリカは日本政府と違い、住民との合意形成を重要視する国であり、日本政府を介さずアメリカにとって何が正義かを示しながら直接交渉するほうが、

基地問題の早期解決につながるのではないかと感じました。フランク下院議員をはじめ、アメリカの国会議員で沖縄の民意に理解を示す人たちと、つながりができたことも大きな収穫でした。

この要請行動の後に、そのつながりを生かしながら名護市長も直接アメリカへ訴えに行きました。帰国後、市長は市議会で「今後も沖縄のよき理解者を増やさないといけない」と述べています。

今回の訪米行動を通して、私は沖縄が「軍事の要石」から「平和の要石」へと脱皮し、万国津梁の民として世界と直接交渉していくことが可能だと実感しました。先日の新聞で、アメリカで私たちのコーディネーターをしてくださった猿田弁護士が、アメリカ政府に沖縄の実情を直接伝えるシンクタンクを創設することを知り、アメリカへ直接働きかけるための新たなパイプができつつあることを心強く思っています。

今回この行動が実現できたのは、最初にアメリカ行きを決断した伊波洋一前宜野湾市長をはじめ、平和市民連絡会、ヘリ基地反

対協等の団体、カンパをしてくれた県内外のみなさん、そしてアメリカで受け入れてくれたコーディネーター、通訳、県人会の皆さ

んのおかげです、改めて感謝申し上げます。

沖縄海兵隊の撤退を求めているフランク・バーニー下院議員と



### 「いちの会のご案内」

毎月1日 18時より1時間、瀬高の後援会事務所（じゅごんの里）にて意見交換会を行なっています。どなたでも参加できます。事前にご連絡いただくとありがたいです。（19時から交流会になります。）

連絡先；電話・FAX：0980558567 携帯：09097869471 Email：ourawan\_dugongs@aqua.plala.or.jp